



TOPIC

もっと広がる、 オープン・ラーニング

More Openings for Open Learning Program

ひらけ！オープン・ラーニング・プログラム

～共に生きるために～

山下 崇 (募金・国内事業課長)

「ふん」「ウジ虫」「雑草」「残飯」この文字を見て、どんなに思いを想像しますか？

想像通りいわゆる「くさい！」に思いがただよってきます。しかし、それが1〜2か月すれば様子は変わってきます。目につく虫はほとんどいなくなり、異臭もなくなります。見た目もほぼ土の状態になり、その中に手を突っ込むと驚くほど温かい。これは「オープン・ラーニング・プログラム」を行う際、私 が特に強調する堆肥化のプロセスの場面です。

アジア学院には開発途上国の農村リーダーを養成する「農村指導者研修」と、広く一般の方々を対象にした「オープン・ラーニング・プログラム」があります。オープン・ラーニングは、アジア学院の体験とおした学びをより開かれたものにしていくことを目的にし、団体向けの「スタディキャンプ」、個人向けの「ワーキングビジター」の受け入れを行っています。そのほか依頼者のニーズに合わせて内容を考え、日帰りから数か月ものまで様々なプログラムを行っており、年間約1000人が訪れてくださいます。

オープン・ラーニングの参加者は都市部から訪れる人が大半で、このプ

ログラムには都市(人工物)と農村(自然物)を結ぶ役割があると感じています。はじめはにおいや虫などで多くの人がアジア学院の環境に戸惑いを感じますが、土の上での共同作業を通じて参加者の中に徐々に変化が生じてきます。ハエが気にならなくなったり、食べられなかったナスが食べられるようになったり。いのちに触れる経験をおして、自分がどのように生かされて、どのように生きているかを感じることができると思います。

私は「土」のような人になれたら良いなと思っています。フンも、ウジ虫も、雑草も、残飯もすべて受け入れ次のいのちの糧に変えていけるような。土は善し悪しで裁かない、ただ次のいのちを育む、命の連鎖がそこにあるだけです。

自分のいのちと他者のいのちを大切にしていきたいこと。そうした気づきを共有できればよいなと思っています。

「アジア学院は

生きている理由が

詰まっているところだ」

(スタディキャンプ参加者の感想)



もっと広がる、オープン・ヨースティング・プログラム

団体向けプログラム「スタディキャンプ」の知られざる全貌をお伝えします！

こんなプログラムも！

JICA海外協力隊補完研修

JICA 海外協力隊の派遣前技術補完研修を8～9月に受け入れました。今回の受け入れは3名（フィリピン、ケニア、ウガンダ派遣予定）。補完研修は技術・知識に関する研修と、学院コミュニティでの体験が中心です。具体的には農業基本知識の授業、有機農業技術（ぼかし肥、土着菌採集と増殖及びその利用、水溶性カルシウム）、有機農業体験、PLA（参加型行動学習法）、コーチングなどの研修を受けながら、アジア学院の学生と共に寮生活をし、グループに入って朝夕の農作業に加わります。日本ではなかなかできない、任国農村を疑似体験しながら英語で過ごす日々は、短いながらも彼らが派遣されたときに役立つ経験となると信じています。



大柳 由紀子 教務



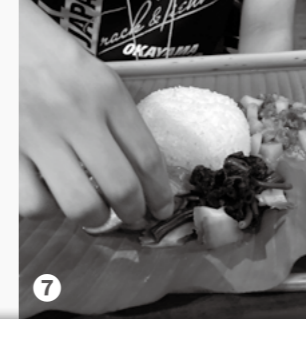
“様々な背景をもつ学生との共同生活はすべてにおいて刺激がありました。とくに、彼らの地域へ学びを還元する意欲を強く感じました。海外で活動するにあたって、今以上に日本のことや自分の価値観を再認識する必要性を感じました。”
久保成人（フィリピン派遣予定）

“育て、つくり、食べることまでが一括して行われているアジア学院ではその一連の流れがとてもわかりやすく、いのちのありがたさ大切さを実感することができました。”



“当たり前になってしまっていた食や普段の生活に対して心からの感謝を覚えることができただけでなく、帰ってからの日常生活を見直し、いかに充実させるかを見つめ直すきっかけにもなりました。”

“有機農業がなぜ良いのか、実際に見たり、触ったり、感じることで、五感で学ぶことの大切さを知りました。また、リーダーとは何か改めて考え、自分の目指したいリーダー像を対話を通して学びました。”



“これからの自分の人生を豊かにしてくれる道しるべになりました。”

- スタディキャンプで大切にしている4つのこと
- ① 自分への感謝
 - ② チェレンジ精神
 - ③ 対話
 - ④ 問い

スタディキャンプ スケジュール（例）

| | | |
|-------------------------------|--------------------------------------|--|
| DAY 1 「共に生きるために」 | 14:00 | チェックイン「今の気分を色で表してみよう」……… 写真① |
| | 15:30 | キャンパスツアー「循環～共に生きるために」 写真② |
| | 17:30 | アジア学院の学生たちの国の文化、課題、希望、なんでも聞いてみよう！英語でね……… 写真③ |
| | 18:30 | 夕食「食料の自給自足を感じ、食への感謝を一緒に分かち合おう」 |
| DAY 2 「フードライフ」 | 6:30 | ラジオ体操 & 清掃 |
| | 7:00 | フードライフワーク …… 写真④ |
| | 8:15 | 朝食 |
| | 9:30 | 朝の集い |
| | 10:30 | 有機農業実践 …… 写真⑤ |
| | 12:30 | 昼食 |
| | 13:45 | ① 食べものとのち、平和について語り合おう |
| 16:30 | ② アジア学院の食材を使ってインドカレーを作ろう！ …… 写真⑥ | |
| 18:30 | ③ 手でインドカレーを食べて、異なる文化を体験してみよう！ …… 写真⑦ | |
| DAY 3 「私が大切にしていきたい」とは何だろう」 | 6:30 | ラジオ体操 & 清掃 |
| | 7:00 | フードライフワーク |
| | 8:15 | 朝食 |
| | 9:30 | 朝の集い |
| | 10:30 | 宿舎掃除 |
| | 11:15 | 振り返り「ペアで正直に語り合おう」 |
| | 11:45 | 自分の大切にしたいことをクリエイティブに表現しよう 写真⑧ |
| | 12:30 | 昼食 |
| 13:30 | 発表タイム | |
| 14:15 | 終了 | |

英国聖公会宣教団のプログラム

7月、英国聖公会の宣教団体「United Society Partners in the Gospel (USPG)」が主催するプログラムを受け入れました。

初年度となる今年は、世界各地の聖公会から青年を募集し、ブラジル、バングラデシュ、パプアニューギニア、パレスチナ、英国等に加え、日本からも1名の参加がありました。

青年たちはアジア学院の様々な作業に参加しました。フードライフワークでは、学生に混じって農作業や調理を行いました

が、何人かにとっては、鶏の餌やりや野菜の収穫は初めての経験でした。授業ではサーバントリーダーシップの基本や、非暴力コミュニケーション、グループファシリテーションの技術を学びました。日本聖公会の主教の方々も、東日本大震災の被災地を訪ねる旅等を企画して下さいました。ある参加者はこのプログラムについて、「新しい技術を学んだり、過去の学びを振り返ることができた」と語りました。

躍動的で将来有望なリーダーたちの育成に加われたことを大変嬉しく思います。

海外からも！



ジャック・リクテン 国際関係課

今後も様々なプログラムを企画していきます。お楽しみに！

アジア学院コミュニティから多くを学んだという2人の学生を紹介します。



「わかりあえなさを越えるために必要なのは「分かち合い」」

岩本 桃子 日本人学生

Mamoko

私は20年近く社会人として働いてきましたが、日々消費を続ける生活に疑問を感じるようになりました。次世代の子どもたちにできることは何だろうと考え続ける中で、「命のサイクルを伝えること」を今後の道として選び、アジア学院への入学を決めました。

私たち学生は有機肥料の扱い方、畜産との向き合い方、生態系など実践的なスキルの習得を通じて専門性を高めつつ、幅広い観点からリーダーシップについて学んでいます。授業の中で、環境の違うそれぞれの仲間が置かれた流通や環境の課題を知ることは、世界を見る解像度を高めてくれます。自分と遠くかけ離れた教科書的な理解ではなく、大切な友人が直面しているリアルな問題として一緒に悩み、現実的な解決策を模索します。

また、毎朝行われる朝の集いや振り返り、NVC(非暴力コミュニケーション)の授業など、お互いの感情を伝

え合う場が日常的にあります。相手を評価することから一度離れて、ありのままを受け入れる。自分の弱さを認め、受け渡す。その経緯を踏むことで、人と人との間に生まれる「わかりあえなさ」は、分かち合いの先に解消していくものなのだと、体験を持って自分の中に染み入っていくのを感じています。

お互いに手を差し伸べあい、共に汗を流し、笑い、歌い、喜ぶ。食べ物を分かち合い、命を分かち合う。ここで学んでいることは、普遍的な愛という種で、潜在的に誰もが必要としているものです。

卒業後は農場を立ち上げ、子どもたちに「命をいただくこと」を伝えるようなプログラムを作りたいと考えています。アジア学院に与えてもらった学びを、地域社会にかなげ豊かさをもたらすことが私の将来の希望です。



「尊厳」がよりよいコミュニティを築くと信じています

ネルソン・イシェンゴマ ウガンダ

ファミリア・モジャ・サポート・イニシアティブ(ケニア) 農場管理者

Nelk

ファミリア・モジャ・サポート・イニシアティブは、ケニア農村部で、食糧援助や教育を通して、孤児や貧困家庭の自立を支援しています。経営学の学位を持つ28歳のウガンダ人、ネルクは、その一員として農業研修を行い、自家栽培した食物を通じて地域住民の生活安定を目指した支援を行っています。持続可能な農業や地域開発についての学びを深めるために、アジア学院に来ました。

アジア学院での生活は多様性に富んでおり、共に問題を克服し、互いを尊重し、助け合いながら営まれています。このような中で、ネルクは協力することと自立の大切さを学び、ケニアでの仕事に生かしたいと考えています。彼は有機農業だけでなく、人々の尊厳について教えることに重点を置

くことが、より良いコミュニティを築くと信じています。他者に尊厳を持って接することは、お互いを尊敬する気持ちや自尊心を高め、家庭内暴力やセクシャルハラスメント、メンタルヘルスの問題の解決につながると言い、結果として、人々の自立心と責任感が養われ、地域全体の益になると確信しています。

ネルクはこの仕事を天職だと感じており、自身も若い頃に助けられたことを思い出しながら、地元の若者が、地域の問題にどのように貢献できるかを知り、自立することが重要だと語りました。彼はコミュニティが将来にわたって持続可能な発展を遂げることに大きな期待を寄せています。

インタビュー・文



ジョナサン・マッカーニー チャブレン・共同体生活

アジア学院の卒業生は、地域を良くするために様々な働きをしています。その一つに、学んできた有機農法を用いて自分の畑で農業をするという方法があります。近所の人たちがやってきて、どうしてこんなに作物の出来が良いのか尋ねてきたら、そこを皮切りに教え始めるのです。エネットは、こうした「農民であるリーダー」の一人です。卒業後、彼女が最初に育成したのは夫のステイブンで、すぐに2人で堆肥とボカシ肥を作り始め、化学肥料の購入をやめました。最初は収穫量が減りましたが、3年目には以前よりも多くの収穫を得ました。「エネットが僕を変えたんだ！」とステイブンは言います。彼女が変えたのは夫だけではなく、近所の人たちはエネットの畑を見て驚き、何をしているのか尋ねました。彼女はアジア学院で学んだ有機農法について教え、彼らもそれを自分たちの畑で試し始めました。ほとんどの人が家畜を飼っているので糞尿は山ほどあり、以前は廃棄されていたのに、今では珍重され、販売されるほどになりました。村の木々も大きな変化の一つです。エネットたちが植えたので、今ではたくさん木があります。村の雰囲気も良くなったのを見て、他の人々も木を植え始めました。「エネットは、村に居ながらにして、生活をより良くしている。」と隣人は話します。「私たちは彼女の方法を試すことを願っています。彼女が自分の畑でも同じことをしているからです。」

農民であるリーダー エネット・ンカシクワ マラウイ 2013年卒業生



ステイブン・カッチェンゴ 卒業生アウトリーチ



エネット(左)と夫のステイブン(右)。彼らが植えた木々の前で

卒業生 UPDATE

日頃のご支援に心より感謝いたします!

寄付者御芳名

(敬称略・順不同)

集計期間 2024年8月1日～9月30日

サポーター寄付・一般寄付

【北海道】 WitmerRobert・圭子 大竹敏雄・陽子 高橋浩二 朴美愛 三橋修 宮崎善昭【青森県】 木村幸子
 【岩手県】 鶴丹谷三千代【秋田県】 田中真【山形県】 加藤敏一 荘内教会保育園【福島県】 川瀬安希 杉原義雄 松谷健司
 【茨城県】 岩田朗 遠藤桂 小幡幸和 角田ひろみ 成島良幸 横川浩・昭子・容子 渡辺貞範(教) 関東東教会教会婦人会連合
 【栃木県】 赤羽正美 阿部真希子 荒川朋子 飯島恵子 飯塚仁美 石川いさ子 今岡憲治 岩川靖子 植竹伸一 大谷雅代 大柳由紀子 川崎圭子 河田ゆり子 吉川宗芳 木村裕子 栗原睦美 郷かほこ 小島美香 小堀朋子 小山博子 坂入貴子 沢谷千亜紀 田上聡・正子 田上利子 田上中 武智明美 田中淳子 内藤崇 長瀬美香 中田康之・正子 長山くるみ 西海好子 丹羽寿美 長谷川恵子 林真智子 原田三恵子 深谷百合子 藤田カツノ 舟越早苗 増山律子 松浦睦子 McCurley 里美 宮岡明子 武藤仁志 村田榮 八木 沢淳 渡邊茂子(教) 宇都宮教会(公) 宇都宮聖ヨハネ教会(キ) 宇都宮松原教会(宗) 雲照寺(教) 鹿沼教会(カ) 厳律シトー会 那須の聖母修道院 つむぎの会(キ) 栃木教会(教) 那須塩原教会(教) 西那須野教会(教) 益子教会
 【群馬県】 亀田瑠子 奥石勇 飛田成史・紀代美 永井順子 太田八幡教会 前橋友の会
 【埼玉県】 池内清子 稲益久仁子 梅澤智 川口景子 河島清 定方薫 高橋秀之 武真人 田嶋公一・明子 千村雅信 長岡静志・治子 野間純 三村美穂
 【千葉県】 天野潤 石崎利夫 太田賢 大谷光弘 風早真紀子 申鉦錫 佐久間健 佐藤伊一郎 佐藤豊美 鈴木良子 高花富夫 谷口静代 野田節子 宮杉さち子 矢口敏和・愛子 山本栄子 全国友の会北関東部【東京都】 阿部哲夫 飯沼一元 伊藤毅史 若切勉 若田達明 鶴崎創 内城節子 角本邦久 柄澤真理子 吉川久美子 吉川容久 世陽子 栗山昌子 黒田俊介 小泉亮也 小林元子 佐柳信男 鈴木由美 高野美恵子 高橋馨・栄子 竹野裕子 竹本浩 田代洋子 角田秀明 中山善和 賛川治樹 西秀樹 西田達雄 原かおり 本田典子 本多峰子 牧甫 松田浩道 丸山正文 滝澤美佐子 室洋子 森哲也 山根正彦・弘子 横手靖彦 横山博子 渡邊友香(学) 桜美林学園(教) 城西教会(キ) 東京告白教会(教) 代田教会 日本キリスト教協議会(学) 明治学院【神奈川県】 荒井明子 今川信夫 岩澤裕基 岩谷求 梅澤昌子 尾崎久美 笠置正民 進宏一 東島昌子 中島菜々子 中本尚孝 瀨野民代 堀川浩邦・恵子 本田忠行 本間勝 山本俊正・Claudia Genung 横浜祈りの集い(公) 横浜山手聖公会【新潟県】 荒井真理【長野県】 青木栄作 植松誠 久保新一 由井和也 弓場法 吉田超【岐阜県】 国枝春己 河本紀子 田川徹【静岡県】 武井陽一 松村芳男 丸山信子 山下清二【愛知県】 大藪かづみ【滋賀県】 秀熊ともよ【京都府】 上田祐未 櫻井鋭子【大阪府】 大本和子 見満紀子【兵庫県】 黒田喜久子 島田恒 谷佐代子 森宗秀 敏山本愛子 山本佳子【岡山県】 岡崎優子 岡山友の会【広島県】 高石孝子【福岡県】 荒川彰【佐賀県】 坂本元嗣【熊本県】 山根誠之【大分県】 鶴丹谷公代【海外】 アジア学院北米後援会

| | | |
|-------|-------------|---|
| 8月 | 8,540,281円 | 寄付金がアジア学院に入金された日に つき掲載しております。入金日は、 口座振替の場合はご決済の1ヶ月後、 クレジットカードの場合は2ヶ月後です。 |
| 9月 | 8,786,516円 | |
| 寄付金合計 | 17,326,797円 | |

寄付金領収書について
 口座振替・クレジットカードでご寄付頂いた場合、所得税法により領収書の発行及び領収日は、アジア学院に入金された日とさせていただきます。

書き損じハガキ
 【北海道】 久世そらち【岩手県】 澤谷ひろみ
 【福島県】 (教) 須賀川教会【栃木県】 新邦之 宇賀神浩人 小野瀬美砂子 駒庭千秋 柴田和明 中田康之 藤田カツノ(教) 那須塩原教会【群馬県】 永井順子(教) 吾妻教会

【埼玉県】 鈴木俊之【東京都】 石井智恵美 石山香世 小鴨速夫 岡本和子 小西孝蔵 新藤貴美子 関京子 中村美果子 並木浩一 山下直子(教) 代田教会
 【神奈川県】 遠藤抱一 黒崎めぐみ 西村由子【新潟県】 風間まり子【大阪府】 小西裕美子(教) 天満教会【兵庫県】 浅野博 デルバ規矩子 森澤正明(カ) 善きサマリヤ人修道会

一品寄付
 【栃木県】 荒川千衣子 大関加代子 久保田隆行 けむじん 郷かほこ 柴田和明 園田可奈子 石崎果樹園(福) フードバンク 県北 ほんだ梨園 西那須野学園 西那須野幼稚園 蔵楽
 【群馬県】 白井真澄【茨城県】 成島良幸【東京都】 岩本恭明 浜田めぐみ 福嶋美佐子 山田貴司 三浦孝枝

【神奈川県】 岡田良仁・裕美 駒形朋子 佐藤茂【愛知県】 深谷ひろみ
 【三重県】 (学) 愛農学園農業高校【京都府】 櫻井鋭子【熊本県】 山本洋子

(医) 医療法人(医社) 医療法人社団(学) 学校法人(カ) カトリック(株) 株式会社(教) 日本基督教団(キ) 日本キリスト教会(公) 日本聖公会(公財) 公益財団法人(公社) 公益社団法人(財) 財団法人(社) 社団法人(宗) 宗教法人(特活) 特定非営利活動法人(パ同) 日本バプテスト同盟(福ル) 日本福音ルーテル教会(有) 有限会社

フードライフなひとコマ

食べものといのちを育む、アジア学院の日常



世代を超えていのちを繋ぐ アジア学院の米



岡田英里
フードライフ課(農場)

9月下旬に米の収穫を行いました。秋雨の中の晴れ間をぬって収穫した米は今年も豊作となり、約7トン超を収穫することができました。

今年は予測困難な気候に加え、米の市場価格の高騰など多くの不安に直面しましたが、それでも安定的に米を収穫できたのは、学生やボランティアをはじめとしたコミュニティの働き、そして自然の恩恵そのものだと思います。

毎年田んぼの一部はコミュニティで手刈りをし、収穫の喜びを分かち合う特別な日を持っています。そして収穫された米は翌年に向けて保存され、次年度の学生やコミュニティの働きを支えています。まだ知りえぬ仲間たちへ繋ぐ命のバトン、これからも収穫の喜びと共に続いていきますように。

クリスマス献金のお願い

毎年クリスマスの時期に皆様をお願いしている特別献金は、人々のために働くことを願う草の根のリーダーを今後も迎え入れ、「仕えるリーダー」として育成するための重要な財源となります。クリスマス献金に、アジア学院に対する皆様の願いと希望を託してください！

- 足利銀行**
 西那須野支店
 口座番号(普通) 0112403
 口座名義 学校法人 アジア学院
- ゆうちょ銀行**
 記号 10700
 番号 8002711
 口座名義 学校法人 アジア学院
 または「アジアの土」に同封の払込取扱票より



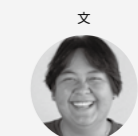
(写真1) ステージパフォーマンス
(写真2) 今年の HTC のテーマとロゴマーク
(写真3) フードコーナー
(写真4) HTC オープニング・セレモニー



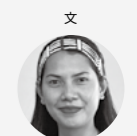
分かち合いの祭典

「明日の糧」への希望とは何でしょうか。それに対する私たちの答えは「分かち合う生活」です。コミュニティで喜びや悲しみを分かち合い、収穫のための労働を分かち合い、そうして得た食べ物も分かち合う。アジア学院ではこれらのことを日々自然に行なっていますが、自分たちの内外で起きる変化に気づくことを忘れてがちです。しかしそれを認識することで、私たちは互いに感謝できるように成長します。

今年、HTCに足を運んで下さった方々、そして遠くから支え続けて下さる方々に感謝します。皆様とのつながりは、私たちにあって今年最大の収穫の一つです。



阿部・チャタジー・マノン
教務主任



スシュ・アギチャック・マラック
学生・HTC コーディネーター

多くのものを持っていても、分かち合う人がいなければ、一体何の意味があるでしょうか。

世界中から集まった私たちは多様な文化を持ち、様々な言語、音楽、食べ物、ダンスでお祝いをします。「収穫感謝の日(HTC)」は、この多様性を学院外の方々と分かち合う、年に一度の機会です。

今年のテーマは「今日の働き明日の糧 Living Today's Challenges for Tomorrow's Harvest」とした。今年、私たちは例年にも増して「Today's Challenges」今日の課題」の重みを感じます。洪水、土砂崩れ、猛暑といった物理的な課題。そして、紛争、失業、希望の喪失といった社会的な課題。そのような中で、私たちは何を祝うのでしょうか。

「明日の糧」への希望とは何でしょうか。それに対する私たちの答えは「分かち合う生活」です。コミュニティで喜びや悲しみを分かち合い、収穫のための労働を分かち合い、そうして得た食べ物も分かち合う。アジア学院ではこれらのことを日々自然に行なっていますが、自分たちの内外で起きる変化に気づくことを忘れてがちです。しかしそれを認識することで、私たちは互いに感謝できるように成長します。



52nd Commencement Service

卒業式

2024

12/14[±]
13:30~

@アジア学院コイノニア食堂

学院での学びを活かし、地域の人々に仕える学生たちの門出を共にお祝いください。どなたでもご参加いただけます。

送迎バス 那須塩原駅発 **12:30** アジア学院発 **15:30**

2025

1/25[±]
10:00~15:00

アジア学院 フレンズデー

@アジア学院

皆様とアジア学院の心が友情でつながる一日となるよう、皆さまのお越しをお待ちしております！

10:00~15:00



フレンズマルシェ

卒業生や元ボランティアが、野菜や雑貨、お食事などを出店します！

13:00~15:00



サポーターの集い

アジア学院での学びについて卒業生のストーリーを聞くチャンス！



キャンパスツアー 他

日本人学生に興味がある方向けのブースも♪

2025年度

長期ボランティア募集

アジア学院の多文化コミュニティで英語を使いながら農的な暮らしをしてみませんか？農場に加えてキッチンやオフィスなど、様々な活躍の場があります。応募方法はウェブサイトの「長期ボランティア」ページをご覧ください。

期間: 3ヶ月~1年 (9ヶ月以上の方を優先します)

開始時期: 3月後半を推奨 (それ以外の時期にも随時募集)

応募×切: ボランティア開始希望日の1ヶ月前

世界を変える“草の根のリーダー”になろう！

2025年度 日本人学生募集

アジア、アフリカ、途上国のリーダーたちと学ぶ9ヶ月間の集中研修。将来、国際協力に携わりたい方も、国内の地域活性化に興味がある方も、他ではできない貴重な学びとなること間違いありません。応募方法はウェブサイトの「日本人学生募集」ページをご覧ください。



願書受付期間
10月~2月

Now on WEB

「アフリカ 卒業生を訪ねる旅」
ウェブサイトにて連載中！

by スティーブン＆カイ



QRコードより
アジア学院サイトへ！



物品寄付 のお願い

ご家庭に眠っているものがありましたら、ぜひご寄付ください。学院内で活用させていただきます。



- ▶ 書き損じはがき
- ▶ 未使用切手
- ▶ 使用済み外国切手

※日本の使用済み切手は、募集を休止いたします。



裏が無地の
大判カレンダー

口頭発表や掲示物
に使います。



容量200L前後、
高さ110cm前後
のもの

冷蔵庫



洗濯機(7~10L)

製造後10年以内で、国内メーカーのもの
※事前にご連絡ください。